

# ボルダリング施設を拠点とした

## 観光・スポーツ振興事業

—No.55 小鹿野町—

### 【事業の目的】

幼稚園・小中学校の授業や一般を対象とした講習会等を開催し、幅広い世代の健康づくりに活用すること及び町内外からの施設利用者とクライマーとの相乗効果によって交流人口を増加させることを目的とします。

また、地域住民と来訪者の利用増加によって双方の「交流拠点」としての役割を持つ施設を目指します。

### 【事業の内容】

学校統合により廃校となった中学校の体育館を有効活用し、ボルダリング設備を整備します。初心者向け講習会の実施や小中学校の総合的な学習の時間等における利用や、登山・クライミング観光者及び一般に開放することにより、地域住民と来訪者の「交流拠点」を目指します。

### 【事業年度】

平成 29 年度～

### 【予算額(千円)】

10,075千円

### 【財源】

ふるさと創造資金（県）、一般財源（町）

## 【事業実施に至った背景・経緯】

小鹿野町は、森林が町面積の約8割を占め、日本百名山両神山、二子山、四阿屋山などには毎年多くの登山者が訪れています。

特に、二子山は本格的なロッククライミングが楽しめる県内有数のポイントとしてクライマーに人気のスポットですが、ロッククライミングができる山としての一般観光者への認知度は低い状況となっています。

また、平成27年に町内に4校あった中学校が1校に統合され、空き校舎等の利活用も喫緊の課題です。

こうした状況から、地元山岳会の協力の下、立地条件を生かしたアウトドア観光・交流の拠点として空き校舎の体育館を活用したクライミング施設を整備し、施設の利用による教育・健康づくりの推進及び施設と連携した取組による登山観光振興を実施することとなりました。

## 【事業のPRポイント】

- 小鹿野町の恵まれたクライミング環境と新設するボルダリング施設を連携させた取組です。
- 小中学校の総合的な学習の時間や初心者向けの講習会を実施することで、町民のクライミングに対する理解を深め、クライマー受け入れの土壌を作るとともに、それぞれのライフステージに合わせた健康づくりにつなげます。

## 【今後の展開】

- 町の山岳資源での体験などを含めた学校の体験学習の受け入れを実施します。
- 施設を利用したボルダリングに加え、中学校校庭を利用したテント泊や炊事体験などのレクリエーションを実施し、施設利用にとどまらない、小鹿野町の自然資源を活用した観光事業と連携した取組を実施します。
- 将来的にはクライミング指導者の養成を目指します。

〔 連絡先 〕

総合政策課 企画政策担当 0494(75)1238